

令和 7 年度

運営に関する計画



大阪市立荻田南小学校

大阪市立荻田南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年度は、学校全体として、おおむね落ち着いた雰囲気の中で、一年間を過ごすことができた。このことは、児童の規範意識の醸成によるところが大きい。「チャイムの合図を守る」「来校者や地域の見守りの方々にもあいさつができる」「靴箱に靴がそろって入れられている。」「聞き手の方をしっかりと見て、話が聞ける」など、各クラスで、日々の目標にしたり、守れた時に「やったー!」と思える仕掛けを工夫したりすることで、徐々に定着してきた。

いじめや不登校等の問題行動が起こった際には、すぐに管理職に報告するとともに、管理職、学級担任、学年主任、生活指導部長、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等による対策委員会を立ち上げ、対応策について、それぞれの立場から意見を出し合い、可能な限りよりよい対応ができるようにした。

基礎的な学力の向上に向けて、読解力と計算力を向上させることに重点を置いた。

まず、読解力の向上に向けて、全校的に、『読書タイム』の設定」「辞書の活用」「要約の仕方の指導」「教材文や課題文への書き込み」などの取り組みを行った。これらの取り組みを継続的に行うことで、学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比では、3年生と6年生が1を超え、4年生と5年生は1を超えるまでには至らなかったものの、前年度よりも向上した。

また、計算力の向上に向けての取り組みとして、毎週水曜日を「スイスイデー」として、個々の習熟度に応じた計算問題等に向かい合わせるようにした。学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比では、6年生が1を超え、5年生は1を超えるまでには至らなかったものの、前年度よりも向上した。

読解力と確かな計算力は、すべての学習の基礎となるため、本年度も継続して実施していきたい。

学習者用端末の活用については、8割以上の児童が活用した日数は、年間授業日の15.4%にとどまったものの、日々の活用率は昨年度に比べ大幅に増加している(1月の平均活用率 74.4%)。日常的には「心の天気」の入力やタイピングの練習等で活用し、授業では、情報の収集や、思考ツール等による情報の整理・分析、ポスターやパンフレット等の作成、プレゼンテーション資料の作成、学習の振り返りなど、数多くの場面で活用しており、児童の操作能力は確実に高まっている。

安全・安心な教育の土台に立って、学力・体力の向上をめざして、丁寧に取り組んだことにより、児童は充実した学校生活を送ることができたと推察される。その結果、2学期末の児童アンケートにおいて、「学校が楽しい」の項目で、肯定的な回答をした児童の割合は97.2%となり、昨年度の93.5%をさらに上回る結果となった。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和 7 年度末の校内調査において、いじめの認知件数を 30 件以下にする。
- ・令和 7 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を 3 %以下にする。
- ・小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、令和 7 年度末に 95%以上にする。
- ・令和 7 年度 2 学期末の児童アンケートにおける「学級や学校のためになる仕事をしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。
- ・令和 7 年度 2 学期末の児童アンケートにおける「学校が楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和 7 年度小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、いずれの学年も 0.87 以上にする。
- ・令和 7 年度全国学力・学習状況調査において、学力に課題の見られる児童（区分 iv）の割合を 37%以下にする。
- ・令和 7 年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 52%以上にする。
- ・令和 7 年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 74%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、令和 7 年度末に年間授業日の 55%以上にする。
- ・パソコンのキーボード入力で、「情報活用の実践力」到達目標系統表に示されている各学年の目標に到達した児童の割合を、令和 7 年度末に 80%以上にする。
- ・教員の一人当たり平均時間外勤務時間を、令和 7 年度末に 33 時間未満にする。
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、令和 7 年度末に 68%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。(R6 : 83.8%)
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を 3 %以下にする。
(R6 : 2.58%)
- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95.5%以上にする。(R6 : 95.4%)
- 2 学期末の児童アンケートにおける「学級や学校のためになる仕事をしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。(R6 : 92.1%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。

	現 4 年生		現 5 年生		現 6 年生	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数
R 5			0.86	1.00	0.82	0.87
R 6	1.04	1.00	0.91	0.92	0.86	0.90

- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 52%以上にする。(R6 : 48.1%)
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 74%以上にする。(R6 : 71.2%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 55%以上にする。(R6 : 15.4%)
- パソコンのキーボード入力で、「情報活用の実践力」到達目標系統表に示されている各学年の目標に到達した児童の割合を 85%以上にする。(R6 : 84.3%)
- 教員の一人当たり平均時間外勤務時間を、33 時間未満にする。
(R6 : 35 時間 10 分、市平均 : 23 時間 49 分)
- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 68%以上にする。(R6 : 63.8%)

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立荻田南小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85% 以上にする。(R6 : 83.8%) ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を 3 % 以下にする。 (R6 : 2.58%) ○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95.5% 以上にする。(R6 : 95.4%) ○2 学期末の児童アンケートにおける「学級や学校のためになる仕事をしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93% 以上にする。(R6 : 92.1%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 ・生活指導部会および生活指導全体会で、いじめや虐待に関して気になる児童の実態交流を行い、全教職員で共有していく。 ・「大阪市いじめ対策基本方針」や「学校いじめ防止基本方針」に基づいたいじめ対策を徹底する。 ・「いじめアンケート」の実施によるいじめの早期発見の取り組みを徹底し、いじめを受けた児童の「救済」に努める。	
指標 ・「心の天気」を毎日活用し、児童の実態の把握に努める。 ・生活指導部会および生活指導全体会で、いじめや虐待に関して気になる児童の実態交流を毎月行う。 ・いじめアンケートにおいて認知したいじめについて、8 割以上解消する。 ・いじめアンケートを年 3 回以上実施し、早期発見を徹底する。(5・10・1 月) ・いじめ防止委員会等を必要に応じて開き、いじめを受けた児童の救済を最優先する。	
取組内容②【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 ・不登校児童の在籍比率を前年度より増やさないために、不登校児童の集団生活へ	

<p>の適応支援や基礎学力の補充を図れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーやこどもサポートネットなどとの連携により、不登校の未然防止や解決を目指す。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携を密にしながら、不登校の解決に取り組み、学校に来ない日が7日続いた場合、家庭訪問を実施し家庭との連携を深める。よって不登校ではあるが、昨年度の登校日数より増えているように働きかける。 	
<p>取組内容③【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活のやくそく」や月目標を守り、落ち着いて学習できる環境を整えるなど、安全で安心な学校生活を送れるようにする。特に、「チャイムの合図を守る」「適切な返事や言葉づかいができる」「整理整頓ができる」ことを中心に、学校のきまりを守れるようにしていく。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケート「チャイムの合図を守る」「適切な返事や言葉づかいができる」の肯定的な回答の割合が96%以上にする。 ・学校アンケート「身の回りの整理整頓をする。」の肯定的な回答の割合が85%以上にする。 	
<p>取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちのために活動できた、友だちに認められたという自己有用感が育つ取り組みを工夫する。 ・温かで思いやりの心を実感できる仲間づくりの実現のために、気持ちのよいあいさつができるようになる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流活動、係活動を計画的に進め、成功体験を積み重ねていく。 ・あいさつ運動強調週間を年8回設け取り組みを行い、学校アンケート「相手の目を見て、進んであいさつができる。」の肯定的な回答の割合が90%以上にする。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育年間計画案に基づいて人権教育を実践し、「部落問題・集団育成」「平和教育」「外国人教育」「障がい児教育」「男女共生・性教育」の5つの人権課題について、正しい理解と認識を持てるようにするとともに、自他の人権を守る実践行動へとつなげることができるようにする。 ・発達段階に応じて、人権課題についての正しい理解と認識がもてるような学習計画を見直す。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内で人権教育の実践交流をする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標について】</p> <p>【取組内容について】</p> 	
次年度への改善点	

(様式 1)

大阪市立荻田南小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標							達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】							
○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。		現 4 年生		現 5 年生		現 6 年生	
		国語	算数	国語	算数	国語	算数
	R 5			0.86	1.00	0.82	0.87
	R 6	1.04	1.00	0.91	0.92	0.86	0.90
○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。							
○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 52%以上にする。(R6：48.1%)							
○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 74%以上にする。(R6：71.2%)							

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科および算数科の授業について、言語活動の充実を図るための取り組みを行う。 ・既習事項の定着を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活用能力の向上のための具体的方法として、以下の活動を授業内において実践させ、読む力や自分の考えを広めたり深めたりする力の向上を図る。 <ol style="list-style-type: none"> ① 課題文に印をつけたり絵図に表したりして、理解する力を高める。また、言葉の意味について辞書等で調べる習慣をつける。 ② 考えの過程や自分の考えをノート等にメモし、それを基に、友だちと話し合う活動を積極的に行う。 ・週に 1 回、国語科および算数科の基礎的な学力向上に向けて、問題に取り組む時間を設ける。 	

<p>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員一人一人が主体的・対話的で深い学びの実現に向けてどのようにアプローチするのかについての研究テーマをもち、グループや全体を通して授業改善を行う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究テーマに応じて分かれたグループの中から 3 つについては、校内の教員全員による授業研究に取り組む。 ・ 全教員が、研究テーマに沿った授業の公開を一人 1 回行う。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体力や運動能力の向上に向けて、授業や休み時間に楽しく運動できる機会を保障する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学級で週一回以上、学級遊びに取り組む。 ・ 年 2 回、各学級で「なわとびカード」「マラソンカード」を用いて、体力向上の取り組みを行う。 ・ 各学級で体育等の授業の導入において、持久力及び跳躍力の向上に向けた取り組みを行う。 	
<p>取組内容④【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 清潔検査と手洗い強調週間を実施し、健康を保持増進するための礎を築く。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 週 1 回、保健委員会が各学級に行き、全校児童の清潔検査を実施する。 ・ 年 2 回、保健委員会が「手ピカ週間」を実施する。 ・ 「手ピカ週間カード」の全校平均を 87 点以上にする。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事マナーの向上や学校給食に関心を持つ取り組みを行う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育推進の取り組みを、給食委員会が前後期で行う。 ・ 毎月、給食月別目標を給食カレンダーや掲示板に掲示する。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標について】
【取組内容について】
次年度への改善点

大阪市立荻田南小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 55%以上にする。(R6 : 15.4%) ○パソコンのキーボード入力で、「情報活用の実践力」到達目標系統表に示されている各学年の目標に到達した児童の割合を 85%以上にする。(R6 : 84.3%) ○教員の一人当たり平均時間外勤務時間を、33 時間未満にする。 (R6 : 35 時間 10 分、市平均 : 23 時間 49 分) ○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 68%以上にする。(R6 : 63.8%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 6、教育 D X の推進】 ・ ICT を積極的に活用しながら、効果的な実践方法を探求する。 ・「情報活用の実践力」到達目標系統表に合わせた授業を実践し、情報活用能力の向上を図る。	
指標 ・ 教員への ICT 研修を年 3 回以上行い、教員の ICT 活用能力のさらなる向上を図る。 ・ 年に 3 回パソコンのキーボード入力で「情報活用の実践力」到達目標系統表に示されている各学年の目標に到達した児童を表彰する。	
取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・ 個々で働き方の見直しを図り、教職員の時間外勤務時間を減少させる。	
指標 ・ 「ゆとりの日」を一人一人が守る努力をする等、時間外勤務時間減少に努め、一人当たりの月平均時間外勤務時間を 32 時間以下にする。 ・ 定期的に自分の月時間外勤務時間を確認することで、自身の勤務時間改善を意識する。	
取組内容③【基本的な方向 8、生涯学習の支援】 ・ 学校図書館の積極的利用を促し、児童の読書意欲の向上を図る。	

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・月二回、読書タイムを行う等、児童の読書時間の確保に努める。・「図書館だよりを月に１回発行する」「学校ホームページで読書に関する情報を発信する」ことで、児童の読書の大切さや楽しさを知らせる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標について】</p> <p>【取組内容について】</p>	
次年度への改善点	